

「疥癬」という言葉を聞いたことがありますか？

疥癬とはなんですか？

疥癬とは、人の皮膚に取り付いて激しいかゆみをおこすヒゼンダニ(疥癬虫)感染症のことです。もしかしたら、あまり耳にしたことのない人も多いかもしれません。疥癬は、はるか昔から人を悩ませ、戦争による栄養状態・衛生環境の悪化などを原因として集団発生を繰り返してきました。ある意味ではありふれた疾患だったのです。

疥癬ではどのような症状がでるのですか？

見た目には普通の虫刺されや湿疹と区別が付きません。薬を塗ってもなかなか治らない時や夜も眠れないほどの激しいかゆみがある時には疥癬が原因かもしれないので、皮膚科を受診し相談してください。ヒゼンダニは、普通の虫刺されとは違い、人の皮膚の一番外側(角質層)に住み着き、卵を産んで増えている

どのように疥癬と診断するのですか？

ヒゼンダニは約0.4mm程度でとても小さく、症状も通常の湿疹に似ているので一目みて疥癬かどうかの判断は困難です。なかなか治らないかゆみがある時に疥癬を疑って検査をすることになります。皮膚の表面を少しとって顕微鏡で拡大して観察し、ヒゼンダニやその卵が見つければ疥癬と診断されます。ただし、

疥癬であったとしてもヒゼンダニは数匹程度しかいないため、検査を行っても見つからないことが多くあります。疑わしい場合には何回か検査を繰り返して判断してゆきます。

どのように治療するのですか？

駆虫薬であるイベルメクチン(商品名…ストロメクトール)という薬を内服します。イベルメクチンは、ノーベル医学・生理学賞を受賞された大村智教授が発見に関わったことで有名ですね。また、外用薬も併用して治療を行います。外用薬は痒いところだけでなく、お風呂で体を洗い流し、全身にまんべんなく

塗ることが大事です。

家族が疥癬と診断されたら何に気を付ければ良いのですか？

ヒゼンダニは人から人にうつりますが感染力自体は強くありません。握手をしたり、隣に座ったりした程度では感染しませんので過度に心配する必要はありません。ただし、患者さんと一緒に布団で寝たり、バスタオルなど直接肌に触れるものを共用したりする場合には感染の可能性がありますので避けてください。また、介護などで長時間、肌が直接接触するような場合にも感染のリスクがあります。身近な人が疥癬と診断されたら、接触した可能性がある家族や介

護スタッフの人にその事を伝え、病院で検査してもらおうようにしましょう。患者さんだけでなく、周囲の人たちも検査・治療を受け、ヒゼンダニが残らないように退治することが疥癬治療には重要です。

今月の先生



岐阜市民病院 皮膚科
水野雄貴 先生

- 専門分野
皮膚科疾患全般
- 役職
皮膚科部医員
- 卒業年、主な職歴
平成23年卒
岐阜大学医学部附属病院
大垣市民病院

岐阜市民病院 市民のためのがん セミナーを開催します

「正しい情報を知ること、伝えること」をテーマとして、情報が溢れる世の中で正しい情報を得る方法や、家族や友人、会社の人など周りの人に伝える方法について国立がん研究センターがん対策情報センター長の若尾医師らがお話しいたします。また、患者会の紹介や医療者相談コーナーも設けます。

日時
平成31年2月23日(土)
13:00から16:00まで

会場
岐阜市民病院 西診療棟4階
サルビアホール

申込方法
住所、氏名、年齢、電話番号を記入して、2月15日(必着)までに、郵送、Fax(058-252-1335)、または岐阜市民病院ホームページの申込フォームでお申込みください。

お問合せ.....

岐阜市民病院
病院政策課

〒500-8513
岐阜市鹿島町7-1
Tel.058-251-1101
(内線4307)
Fax.058-252-1335

岐阜市民病院 検索